

2022年11月9日（水）

「水曜サロン with 赤堀会長」第3期 第8回（通算38回）

## 子ども・若者はどうやって政治を学ぶのか？～主権者教育の実践例を参考に～

西野 偉彦 氏（慶應義塾大学SFC研究所上席所員）

### 1. 内容

- ・ 国政選挙における10代の投票率
- ・ 主権者教育とは何か
- ・ 文部科学省「主権者教育実施状況調査」
- ・ 主権者教育の事例紹介
- ・ 主権者教育の課題と展望

### 2. 所感

今回のテーマは、主権者教育。前回の金融教育に続き、教育ICTに直接関係ないテーマへのチャレンジでした。西野先生の豊富な事業実践、海外の事例の紹介、そして熱い質疑で、素晴らしい会になりました。

主権者教育とは、国や社会の問題を自分の問題としてとらえ、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者像を育む教育。若者の投票率が低いのは、政治に無関心なのは、これは何も日本だけの問題ではなく、また若者だけの問題でもないかもしれなません。実際に西野さんの話では、30代～70代からも主権者教育を体験したいという声が上がっているといえます。主権者教育の内容は、政治だけではなく、目標は投票率を上げるだけでなく、地域の街づくりへの提案や生徒会活動、更に身近なテーマで、夏休みの短縮、遊具を決めるなど幅広く多種多様でした。

質疑の際には、アメリカの大統領選挙のように、もっと楽しさを演出したほうがいい。生活のルール作りは自分たちで考え自分たちで決める、自分たちで決めたからには、決めた後の責任を持つ。西野氏からは、主権者教育が広まるのであれば、主権者教育というネーミングはなくなってもいいなど、質疑は白熱しました。

現在、AIドリルの活用で、習得の効率化により、探求の時間を確保している事例が見られますが、そこに主権者教育を加えてほしい、主権者教育は、教育の根幹である、そう強く感じる一時間でした。西野さん、ありがとうございました。

以上